

第 22 回 GRAND CYCLE TOKYO 実行委員会

日時：令和 7 年 11 月 27 日（木）11 時～11 時 30 分

場所：都庁第一本庁舎 15F 会議室及びオンライン

議事次第

1 開会

2 審議事項

（１）Bike New York とのパートナーシップ協定締結について

3 報告事項

（１）事業最適化部会の間まとめについて

4 その他

5 閉会

GCT事業の海外発信力強化に向け、**Bike New Yorkとパートナーシップ協定を締結する。**

1 協定の概要

(目 的) **都市の持続可能な発展のため、環境負荷低減や健康増進に寄与する自転車利用の環境づくりが重要との共通認識のもと、両者の友好関係やイベントの相互発展を育む**

(取 組) ○地域活性化を目的としたサイクリイベントの企画開発、
市民の参加促進、両イベント交流による参加拡大

○自転車施策の推進

○持続可能な都市の実現に向けた取り組みの推進

※双方の権利・義務・負担等の法的拘束力を有するものではない旨、明記



(締結主体) 都、GCT実行委員会、Bike New York、HM-A (Bike New York 日本代理店)

2 今後の予定

11月末 Bike New Yorkとの**パートナーシップ協定締結**

12月5日 (予定) **協定締結を公表**

12月7日 レインボーライドのスタートセレモニーにて**Bike New York CEO(Kenneth J.PODZIBA)**
とともに**協定締結PR**

開催のあり方 都民支持

- THE ROAD RACE TOKYO・レインボーライド相乗効果の観点から、ロードレースの**周回コース**の**設定や両大会の連携開催の可能性を検討**
- 長距離の交通規制による地元負担**について検討が必要
- ファミリー層から上級者まで、**多くの参加者が楽しめる自転車イベントの展開**

新たな価値創造 収入増

- GCT事業のブランディングとして、**両大会を同時に推進するのは現時点では困難であることから、レインボーライドを主体としたブランディングの推進**
- 海外連携の推進によるブランド価値向上の好循環の可能性**（Bike NewYork、UCI等）
- スポンサー露出が少なく、一層の工夫が必要**

費用対効果

- ロードレースの**周回コースの活用やコースの固定化による費用削減を検討**
- 安全対策費については、安全面を第一に考えたうえで引き続き経費を精査**
- 両大会の**運営方法・費用の効率化を検討**

- UCIからは、主催者、大会運営、安全性、観客数等を中心に**高い評価**
- 沿道観戦数、ネット観戦者数等については、国内外の大会と比較しても**トップクラスの数字**
- 来場者、ボランティア、SNSでの評価は**肯定的**
- これだけの大規模な大会を東京で開催することは素晴らしく、**安全面においては世界でも稀なレース**
- フィニッシュ会場や青梅周回コース上を中心とした**盛り上がり**などを見ても、スポンサー獲得含め**ポテンシャルのある大会**

- 前回大会の反省を踏まえ、関係者説明、広報活動を強化したが、**住民からの多くの問い合わせ・苦情**
- 車移動が多い**多摩エリアでの大規模な交通規制は、住民生活や交通事業者の営業活動に多大な影響**
- 多摩エリアでの大規模交通規制は、緊急車両横断の件数が増えると対応の遅れにつながりかねない**リスクがある**
- ワンウェイコースは、国内大会を見ても大変貴重ではあるが、**コスト面、地域へのメリット、スポンサー露出の側面から見てもあまり効果が大きいとは言えない**



THE ROAD RACE TOKYOについては、GCT事業全体として考える必要があることから、本部会でのレインボーライドの視察結果等も踏まえ、引き続き検討

開催時期	内容（予定）
令和8年 1月下旬	・ レインボーライド・マルチスポーツ開催報告
2月	・ 事業最適化部会の最終まとめ
3月下旬	・ 実行委員会会則等の改定 ・ R8事業計画、予算計画、共催協定